

表題(BIZ UDP ゴシック・太字・14 ポイント)

副題(BIZ UDP ゴシック・太字・11 ポイント)

産業 太郎¹, 産業 次郎², 産業 三郎³

Contribution Title in English (Times New Roman, 10pt, Bold)

Subtitle (Times New Roman, 10pt, Bold)

Taro SANGYO¹, Jiro SANGYO² and Saburo SANGYO³ (Times New Roman, 10pt)

Abstract: The abstract should summarize the contents of the paper in short terms, that is 150–200 word (using Times New Roman, 10pt). The following text is an example. The Society for Occupational Safety, Health and Ergonomics (SOSHE) was founded in Japan in 1991. It is a small society with an extraordinary amount of energy. It has had annual meetings with more than 100 participants every year. The meetings have a limited number of speakers as the members dislike parallel discussions and short discussion time. About 40% of the participants return year after year and 60% are local participants for one year only. This format has allowed ergonomists to meet many people with no apparent connection with ergonomics. An example is groups concerned with agricultural technology. They wanted to teach farmers good working postures and the management of working hours as well as crossbreeding of fruit and vegetables and soil improvement. Other related groups are industrial hygienists, occupational nurses, and industrial managers. At our meetings, we invited researchers and people with practical experience in occupational health, safety, and ergonomics to consider solution-oriented approaches to the issues that directly confronted us.

Keywords: first keyword, heart rate, fMRI, SOSHE

1. 節のタイトル(MS P 明朝・太字・11 ポイント)

1.1 項のタイトル(MS P 明朝・太字・10 ポイント)

論文は、Microsoft Windows 10 または 11 用の Microsoft Word 最新版を利用し、学会が提供する書式ファイルを用いて作成し、docx 形式のファイルとして保存してください。Macintosh 版 Microsoft Word での作成は、体裁が崩れるため、お勧めしません。他のソフトウェアやオペレーティングシステムのもとで作成し、編集時に論文の体裁が崩れるなどのトラブルが生じた場合には、編集委員会が可能な範囲で対応しますが、著者に編集のご協力をお願いする場合がありますので、ご了承ください。

本文のレイアウトは、2 段組で 1 ページあたり 36 行とし、上下のマージン(余白)を 25mm、左右のマージンを 20mm、段間を 10mm とし、タイトルおよび本文等をこの範囲に納め、図表においても、この範囲を超えないようにレイアウトしてください。

論文題目(タイトル)はゴシック体・14 ポイント・太字で記載してください。ゴシック体フォントには、Windows 10 または 11 に標準搭載されているユニバーサルデザインフォント「BIZ UDP ゴシック」の利用を推奨しますが、利用不可の場合には、「MS P ゴシック」を用いてください。その場合、編集段階でフォントを修正いたします。

著者名は、MS P 明朝・11 ポイント・太字で記載し、姓と名の間には全角のスペースを1つ入れてください。著者および共著者の所属先がそれぞれ異なる場合には、各著者名の後に上付きの添え字をアラビア数字で付してください。なお、編集時に著者および共著者の所属(和文、英文)を完成原稿の第1ページの脚注に記載するため、提出原稿には記載しないでください。

英語タイトル、英語サブタイトル、英語著者名に続き、英語抄録を 150～200 語程度で記述してください。和文抄録は、参考文献の後に本文と同じ書式にて 1 段組 300 字以内で記述してください。英語抄録の書式(改行幅など)は、本文と異なりますので、この原稿書式を利用してください。

英語抄録に続き、キーワードを 3～5 の英語で記載してください。

本文は、10 ポイントの明朝体(MSP 明朝を推奨)を用いて 2 段組で作成してください。文字の色は黒のみとします。この場合、1 段当たりの文字数は、22～25 文字程度です。また、文中で用いるアラビア数字および英語には、欧文フォント(Times New Roman)を用いてください。数値の単位には SI 単位系(m, kg, s, A など)を用い、統計記号(n , SD , t , F , p など)には斜体を用いてください。

各段落の設定では、配置を「両端揃え」、インデント設定を左右 0 字、最初の行を「字下げ」とし、字下げ幅を 1 字としてください。

1.2 本文および図表のタイトルに関する書式

本文の各節、項などのタイトルは、1.・・・, 1.1・・・, (1)・・・, 1)・・・の形式にて、フォントは「MS P 明朝」の太字としてください。この原稿書式に用いたタイトルの段落設定は、インデントの設定を左右 0 字、ぶら下げ 6.5mmとしています。

図表タイトルは、「表 1 作業時間と〇〇の出現回数」のように、本文と同じ文字サイズ、フォントにて記載し、タイトルをセンタリング(中央揃えに)してください。

図のタイトルは図の下に、表のタイトルは表の上に記載し、論文全体を通して、図表に分けて通し番号を付してください。

当学会の論文では、著者の所属等の情報を記載する目的以外での脚注の利用を原則として認めていませんが、特段の事情のある場合には、その旨を編集委員会へご連絡ください。

1.3 文体および用字・用語に関する留意事項(このタイトルのフォントは MS P 明朝・太字・10 ポイント)

この説明は敬体(～です, ～ます調)で記述していますが、論文は必ず常体(～である, などで終わる文章)で記述してください。

用字・用語は現在かなづかいとし、原則として常用漢字を用いてください。ただし、当該専門分野において、最も一般的に用いられている用字・用語のある場合、規格・法

律等で定められた用語の場合には、この限りではありません。

日本語の文章に用いる読点には「,」(全角)を、句点には「。」(全角)を用いることとし、和文には半角のカンマを用いないでください。一方、英語の文章および英語の参考文献を記述する場合には、半角のカンマを用い、カンマの後に半角のスペースを 1 つ入れてください。この場合、全角のカンマ(読点)を用いないようにしてください。

2. 図表の書式

2.1 図表に用いる文字

図表に含まれる文字を記載する場合には、判読性および可読性を考慮したうえで、モノクロームにて作成してください。当学会では、カラーの図表やカラー写真の掲載は原則として受け付けておりません。これらの図表が原稿に含まれる場合には、著者の意図にかかわらずグレー・スケールに変換されます。このため、グラフ要素を色で分けている場合には、グレー・スケールで判別できるような配慮をお願いいたします。そのためには、レイアウトを考慮した上で、最小 8 ポイント程度の大きさとし、文字がさらに小さくなる場合には、ゴシック体フォント(Arial などの欧文フォント, BIZ UDP ゴシックなどの日本語フォント)を用いて判読できるようにしてください。また、折れ線グラフを色で区別している場合には、モノクロの破線や点線、実線などで区別できるようにしてください。また、数値の桁や小数点の位置、書体を揃えたうえで、英語、数値には欧文フォント、日本語には和文フォントを用いるなど、可能な限り書式には一貫性を保ってください。

2.2 図表の大きさ

図表は、含まれる文字の大きさなど、見やすさを考慮し、1 段または 2 段のいずれかの大きさで作成し 1 段の場合、横 165mm, 縦 230mm を超えないようにしてください。

図表のレイアウトや段組について特に指定のある場合には、編集委員会へご連絡ください。

3. 参考文献

3.1 参考文献の記載方法

参考文献を記載する場合には、本文の該当箇所に必ず参考文献の番号を表す添え字を付してください。例えば、この文末の形式で上付きの添え字を付します³⁾。参考文献リストには、添え字の番号に該当する参考文献について、次の参考文献リストの形式にて記載してください。書式設定は本文と同じです。従って、和文の参考文献はページ番号以外を全角で、欧文の参考文献はすべて半角で記載してください。

ページ番号は欧文フォント(半角)で記載します。ページの間隔を表す記号には、Ctrlキーを押しながらテンキーのマイナス「-」を押すと入力できる半角のen ダッシュ「-」を用い、ハイフン「-」や全角記号の「ー」は用いないでください。

参考文献(MS P 明朝体・太字・10 ポイント)

- 1) 著者名:表題, 雑誌名, 巻(号), 頁-頁 (西暦での発行年) [本文と同じ和文書式, ページ番号と en ダッシュ「-」は半角で記載してください]
- 2) 鈴木太郎, 佐藤次郎:産業保健人間工学会論文誌の書式について, 産業保健人間工学研究, 23(1), 10-15 (2022)

- 3) 著者名:書名, 頁-頁, 発行所, 出版地 (西暦での発行年)
- 4) 佐藤次郎:人間工学, 2-18, ○○出版, 東京 (1998)
- 5) 著者名:題名, 編者名, 書名, 頁-頁, 発行所, 出版地 (西暦)
- 6) 佐藤次郎:産業保健研究について, 産業保健人間工学会編, 作業と職場環境, 102-118, ○○出版, 東京 (2011)
- 7) ホームページのタイトル, URL, 閲覧日 (西暦:年/月/日, 0000/0/00 の形式にて)
- 8) 産業保健人間工学とは,
<https://www.soshe.jp/aboutus.html>, 2022/7/23
- 9) Author, F.: Article title. Journal 2(5), 99-110 (2016)
- 10) Author, F., Author, S.: Title of a proceedings paper. In: Editor, F., Editor, S. (eds.) Conference Title, LNCS, vol. 9999, pp. 1-13. Publisher, Location (2016)
- 11) Author, F., Author, S., Author, T.: Book title. 2nd edn. Publisher, Location (1999)
- 12) Author, F.: Contribution title. In: 9th International Proceedings on Proceedings, pp. 1-2. Publisher, Location (2010)
- 13) Homepage Title, <https://www.soshe.jp/aboutus.html>, 2022/7/23

和文抄録 (タイトルはゴシック体・10pt・太字)

和文抄録を本文と同じ書式, フォント, 文体を用いて 300 字以内で記述してください。以下, 記述例です。産業保健人間工学会は, 1991 年に研究会として発足した。発足以来, 当会には従来の日本産業衛生学会, 日本人間工学会では見受けられなかった様々な領域の人々が参加された。例えば, 研究職者, 農業関係者, 企業の生産技術関係者及び人事・労務関係者, 工業技術指導者等の多彩な実務家の顔ぶれであった。また, 会を重ねる毎に, 参加者全員によって, 当研究会を上記のいずれかの既存学会に部会登録して活動するか否かについての議論が繰り返された。しかし, 参加者一同からの回答はいずれの学会にも所属しない, 独立学会としての設立を希望するものであった。